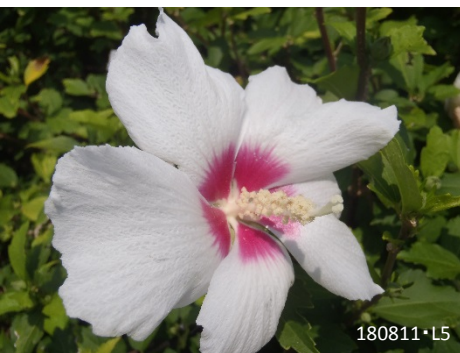


8月

↓アジュール舞子の草花・花木 8月

ムクゲ 木槿

アオイ科フヨウ属の落葉樹。花は一重咲き、半八重咲き、八重咲きのものがあり花びらの形や枚数によってさらに細かく分類されます。色は白、濃紅、濃紫、青紫、ピンクなどがあります。花は短命で朝咲いたらその日の夕方にはしぼんでしまう一日花です。



180811・L5



180811・I5



180803・H5



180803・H5

ハマボウ 浜朴

アオイ科の落葉低木。花期は7-8月で、直径7cm程度の、中心が赤褐色の黄色い花を咲かせる。花の形態は同属のハイビスカス、ムクゲ、フヨウ等に似る。花は1日でしぼむが、大きな株は夏季に毎日次々と開花する



180803・J5



花後の実

180811・J5

キョウチクトウ

夾竹桃

インド原産。葉は長楕円形で、両端がとがった形。やや薄くて固い。花は、およそ6月より残暑の頃である9月まで開花するピンク、黄色、白など多数の園芸品種があり、八重咲き種もある。



180811・M4



180811・M4



180811・M4



180811・M4

サルスベリ 百日紅

春に伸びた枝の先端に夏から秋にかけて花を咲かせます。花色は白、ピンク、紅、紅紫などがあります。樹皮のはがれた部分はつつりつつりしているところから、「猿も滑って落ちる→猿滑り」というのが、名前の由来とされています。



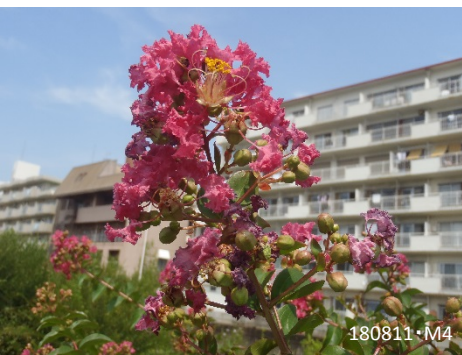
180804・B5

↓アジュール舞子の草花・花木 8月



シモツケ 下野

バラ科シモツケ属の落葉低木。地際からたくさんの枝を出して広がり、葉は長楕円形で長さ5cm～10cm、秋に紅葉します。主な開花期は晩春～初夏、淡い紅色の小さな花をたくさん咲かせます。



コバノランタナ

小葉のランタナ

コバノランタナは桃色や白色の花を咲かせる匍匐(ホク)性の低木です。ランタナと同じ仲間ですが南アフリカ原産の植物で寒さにはあまり強くありませんが、暖地では庭植えて越冬させる事ができます。



アメリカノウゼンカズラ

7～9月に咲くノウゼンカズラ科の花。花の特徴は、枝先に円錐花序(枝分かれして全体が円錐状に見える)を出し、赤橙色ないし黄橙色の筒状の花をつける。ノウゼンカズラよりも花径は小さく、筒は長い。



ヒペリカム・ヒドコート (大輪金糸梅)

ツバキ目オトギリソウ科オトギリソウ属の耐寒性半落葉低木です。葉は、楕円形で緑色をしており、秋に紅葉します。枝に艶のある黄色い五弁の丸花を多数つけます。花は全開します。キンシバイ(金糸梅)の園芸品種です。



アベリア

低木で、春～秋のかなり長期に渡って、鐘形の小さい花を多数咲かせる。花の香りは非常に強い。日本列島の関東以西では真夏の酷暑の時期に花をつける在来植物が少ないため、この時期にはアベリアの花に多様なハチやチョウが吸蜜に集まる。



180818・H8



180811・R3



180811・I5

ハマゴウ 浜栲

海岸に生育する常緑の低木。本州・四国・九州からアジア東南部から南大西洋、オーストラリアにも分布している。葉の裏面には灰白色の毛が密生しており、白い。夏に美しい唇形の花を咲かせる。花冠は長さ1~1.5cmで青紫色。



180811・R3



180811・I5



180811・M4

クコ 枸杞

ナス科の落葉低木で、食用や薬用に利用される。開花期は夏から初秋で、直径1cmほどの小さな薄紫色の花が咲く。果実は1cm~1.5cmほどの楕円形で、赤く熟す。



180803・I5

アベリア・ホープレイズ

アベリアの斑入り種で、黄色の外斑と長期間咲き続けるピンクの小花が美しい。



180811・M4



180818・H8

ローズマリー

地中海沿岸に分布する常緑性の低木です。強い芳香があってハーブとして利用される。

葉っぱは3cm程の短い棒状で濃緑色、表面には光沢があります。冬から秋にかけて葉の付け根に淡紫色の花を咲かせます。満開時は枝がたくさんの花で彩られます。



180803・I5

↓アジュール舞子の草花・花木 8月



ネムノキ 合歓の木

ネムノキは東北地方以南に生育する落葉の高木。梅雨の終わりから盛夏にかけて咲く花は繊細で美しい。長く伸びた糸状のものはおしべである。独特の花弁を持つマメの花とちがう印象があって、独立の科に分類する意見もある。

ハナズオウ 花蘇芳

花の咲く時期は4月から5月、葉を出す前に葉の付け根に蝶型の花が数輪まとまって咲きます。花は赤紫色で、大きさは約2cmです。花茎が極端に短いので枝に直接くっついてるように見えます。満開時期は花が枝を覆います。花後にキヌサヤインゲンを短くしたような平たい豆鞘がたくさん垂れ下がり、熟すと褐色になります。

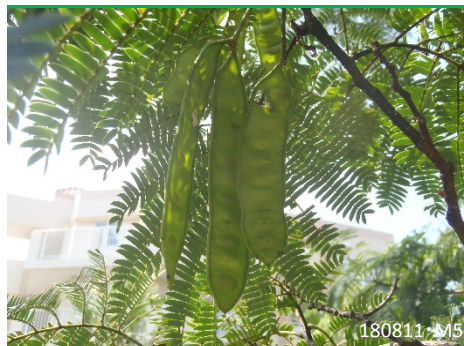
ハマナス 浜茄子

バラ科バラ属の落葉低木。夏に赤い花(まれに白花)を咲かせる。根は染料などに、花はお茶などに、果実はローズヒップとして食用になる。



ソシンロウバイ 素心蠟梅

葉の展開に先立って、花径2センチくらいの花をたくさんつける。ロウ細工みたいな花弁と嫌みのない芳香が特徴。蠟梅(ロウバイ)は内側の花被片が濃い紫色になるのだが、素心蠟梅(ソシンロウバイ)は花被片全体が黄色くなる。



↓アジュール舞子の草花・花木 8月

フェイジョア

南米を原産、冬も葉が落ちない常緑性の樹木で果実を食用とする果樹です。5月～6月に径4cmほどの花を咲かせます。花びらは外側が白で内側が暗紫色、真っ赤な糸を束ねたような多数の雄しべが花の中心から放射状に伸び、非常に目立ちます。果実は最初緑色で熟すと赤く色づいてきて、中秋～晩秋が食べ頃になります。



180811・M5

ヤブツバキ 藪椿

椿の仲間には200品種を超える園芸品種が作成されていて、日本に自生している野生種はこのヤブツバキと、その変種とされるユキツバキとヤクシマツバキの3種だけです。「つばき」の語源は、厚葉木(あつばき)または艶葉木(つやばき)といわれている。



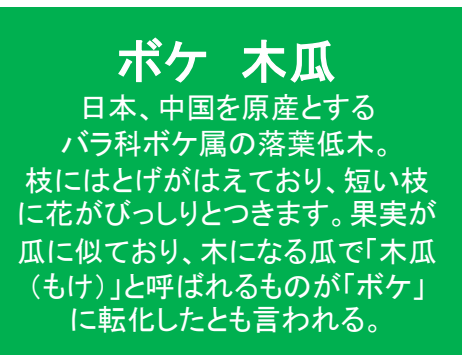
180818・G5



180803・J5

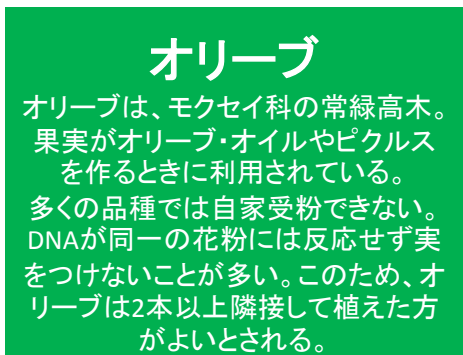
ピラカンサ

バラ科トキワサンザシ属の種類の総称。常緑性の低木で、春に白い小花を咲かせ、秋から冬にかけて赤や柿色の果実をたわわに実らせる。



ボケ 木瓜

日本、中国を原産とするバラ科ボケ属の落葉低木。枝にはとげがはえており、短い枝に花がびっしりとつきます。果実が瓜に似ており、木になる瓜で「木瓜(もけ)」と呼ばれるものが「ボケ」に転化したとも言われる。



オリーブ

オリーブは、モクセイ科の常緑高木。果実がオリーブ・オイルやピクルスを作るときに利用されている。多くの品種では自家受粉できない。DNAが同一の花粉には反応せず実をつけないことが多い。このため、オリーブは2本以上隣接して植えた方がよいとされる。



180818・I5



180811・Q3



180803・Q3

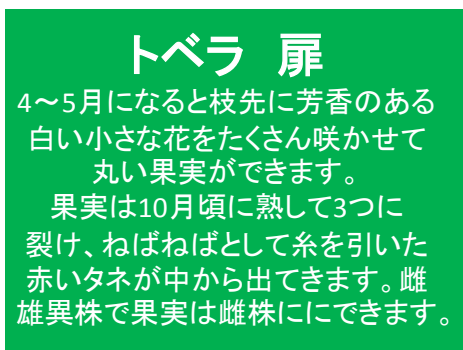
マルバシャリンバイ

丸葉車輪梅

葉が丸いシャリンバイです。花は白～薄紅色で、晩春に梅に似た花を咲かせます。晩夏～秋に黄緑色の球形の果実を成らせその後熟して黒くなります。



180818・Q3



トベラ 扉

4～5月になると枝先に芳香のある白い小さな花をたくさん咲かせて丸い果実ができます。

果実は10月頃に熟して3つに裂け、ねばねばとして糸を引いた赤いタネが中から出てきます。雌雄異株で果実は雌株にのみできます。



180818・H5

↓アジュール舞子の草花・花木 8月

シャリンバイ車輪梅

バラ科シャリンバイ属の常緑低木。小枝を車輪状に出して、5月に梅に似た白い花を咲かせることからシャリンバイの名前があります。花後には直径1cmほどの球形の実を付け、10月頃に熟して黒紫色になります。



アラカシ 粗樫

いわゆる「ドングリの木」の代表的な樹種であり、特に西日本に多く、関西地方ではごく一般的に庭木として使われる。枝の出方が荒いこと、幹に割れ目が多くて粗い感じがすること、材が堅いことなどから「粗い樫」→「アラカシ」と呼ばれるようになった。



タラヨウ 多羅葉

モチノキ科モチノキ属の常緑高木。雌雄異株で、花期は4~5月頃、4mmほどの小さな淡黄緑色の花が群れて咲く。秋には8mmほどの小さな球形の赤い実がなる。葉の裏面を傷つけると字が書けることから「葉書」の語源ともいわれ、「郵便局の木」と定められ各地の郵便局に植栽されています。



ネズミモチ 鼠糞

葉は卵形で先端がとがってやや厚みがあり、表面に光沢があります。6月頃に先端が4つに裂けたラッパ状の小さな白花をまとめてたくさん咲かせます。果実はだ円形で秋に黒紫色に熟します。果実がネズミの糞に似ており、葉がモチノキに似ているのでこの名前があります。



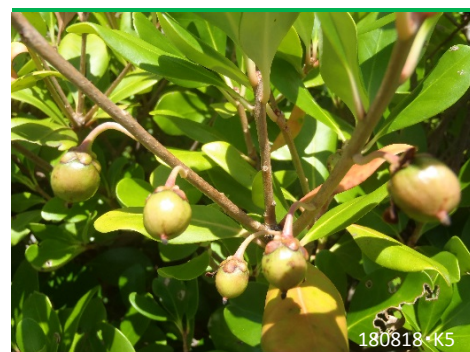
モッコク 木斛

ツバキ科の常緑性広葉樹。7月頃に淡いクリーム色の花をうつむきかげんに咲かせます。花後には球形の果実ができ、秋に赤く色付きます。モチノキ、モクセイとともに「三大庭木」にも数え上げられ、地味ですが風格があり、庭の主役として扱われてきました。



マサキ 柎

葉は楕円形で縁にゆるやかなぎざぎざが入り、革のような光沢があり厚めです。夏に緑がかった白色の小花を咲かせ、冬には赤い実を付けます。熟した実は3~4つに裂けて、中から赤黄色の種子が現れます。



クログネモチ 黒鉄糞

5月~6月にごく淡い紫色がかかった小さな花を咲かせます。花自体は小さく目立ちませんが花後に1cm足らずの果実をたくさん付け、秋になると真っ赤に熟します。たくさんの真っ赤な実を付けた秋の姿は非常に美しく冬までその姿を楽しむことができます。



ユズリハ 譲葉

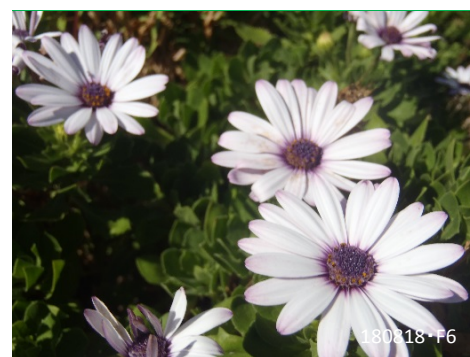
葉は厚くて光沢があり色は濃い緑色で葉と枝をつなぐ軸(葉柄)の部分が赤味を帯びています。新旧の葉の世代交代がユズリハの場合「若葉が生えそろうたら→古い歯が一斉に枯れ落ちる」というふうに短期間にはっきりしています。



180818・H5

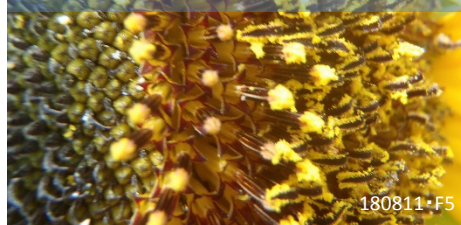


180811・F5



180818・F6

ヒマワリの花は大きな一つの花のように見えるが、実際は頭状花序と呼ばれ、小さな多数の花が集まって一つの花を形成しています。



180811・F5



180818・F6

ヒマワリ 向日葵

北アメリカのテキサスやカリフォルニアを原産地とし、野生のものは60種ほどが知られています。ヒマワリというと大きな花を連想しますが、野生種はさほど大きな花を付けず、現在の大輪のものは品種改良によってつくられたものです。



180811・F5

マツバギク 松葉菊 (サボテンギク)

ハマミズナ科マツバギク属の多年草。葉は松葉のように棒状で、菊をイメージさせるような花を咲かせる。花はピンク、白、オレンジ、黄、紫、赤など多彩で、朝に花が開き夕方に花が閉じる。



180811・H4

ガザニア

主な開花期は初夏-秋で長く伸ばした花茎の先端に1輪の花をさかせます。色は黄色、ピンク、オレンジ、赤、白などがあり、蛇の目模様や2色咲き(バイカラー)、ストライプなど非常にカラフルです。花は晴れた日中に開き、日の射さない曇りや雨、夜間は閉じます。



180818・H5

オステオスペルマム

おもに南アフリカに分布する毎年花をさかせるキク科の草花。以前はディモルフォセカと混同されて売られていましたが、多年草で花茎に葉がつくなどの違いがあります。強い日差しを好み、乾燥に強いという性質は共通しています。花は日差しに反応して開き、日陰や雨の日は蕾のままになります。



180811・F5



180809・H5

↓アジュール舞子の草花・花木 8月

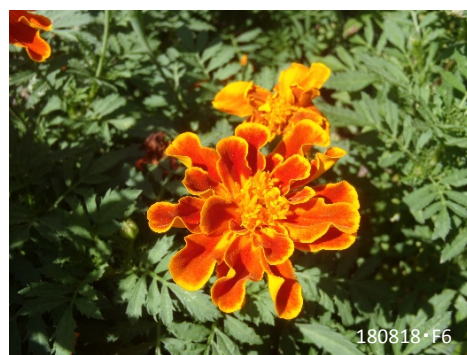
ゼラニウム

花は一重、八重などがあり、色は赤、紅、淡紅、ピンク、サーモンピンク、白などがあります。葉は丸っこく、馬のひづめ型の黒っぽい斑紋が付きまします。茎は多肉質で太く、葉のつけ根から花茎を伸ばして先端に数十輪の花をボール状にまとめて咲かせます。



ペチュニア

初夏から秋にかけて咲く草花で、夏の花壇には欠かせない植物の一つです。品種改良も多く、500種以上の園芸品種があります。大輪、中輪、小輪種があり、八重咲き、一重咲きなどのバラエティーもあります。別名「ツクバナアサガオ」とも言います。



シロタエギク

白妙菊

寒さには強いが高温多湿にやや弱い常緑多年草で、草丈50～100cmくらいになり、茎の下部は木質化する。葉は長さ10cmくらいで羽状の切れ込みがあり、茎や葉は緑だが白い繊毛があり、6月か7月頃に黄色い花が開花する。



ベゴニア

シュウカイドウ科シュウカイドウ属に属する植物の総称。原種を交配し、多くの種や品種がつくられたため、それらの性質は多様である。共通する特徴は、葉の形が左右非対称であること、花は雌雄別であり雄花は4枚、雌花は5枚の花びらをもつことなどである。



マリーゴールド

主に春にタネをまき、夏～秋に花を楽しみ、冬前には枯れる一年草です。花色は黄色、オレンジ、赤など暖色系が多いですが、珍しいものでは白やクリーム色の花も知られています。



ヘメロカリス

初夏から夏にかけて次々と花を咲かせる多年草。「デイリリー」の英名どおり、花は一日花ですが、1本の花茎にたくさんの花を咲かせ、何本も立ち上がるので、長期間花が楽しめます。園芸品種は2万以上あるといわれ、花色、花形、草姿などさまざまです。午前中の花が美しいです。



アフリカハマユウ (インドハマユウ)

一般的にはまだインドハマユウの名で流通していますが、正しくはアフリカハマユウであることが判明。南アフリカ原産の多年草で、茎の先にテッポウユリやタカサギユリに似た白い花を多数つけます。



180804・06

ヒナギキョウ 雛桔梗

キキョウ科ヒナギキョウ属の多年草。日当たりの良い原野に生育する。高さ20~40cmになり、7月から9月に小型ではあるが長い柄の先にキキョウにそっくりの花をつける。



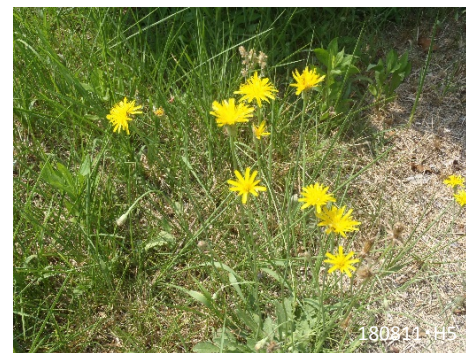
180803・R3



180803・K5

ブタナ 豚菜 (タンポポモドキ)

キク科エゾコウゾリナ属の多年草。ヨーロッパ原産で、日本では外来種(帰化植物)として各地に分布。
環境省指定要注意外来生物



180811・H5

シンテッポウユリ 新鉄砲百合

夏~初秋、白い筒状花を咲かせるユリ科ユリ属の耐寒性多年草です。タカサゴユリと、テッポウユリの自然交雑で、外見上、親の特徴を受け継いでいます。タカサゴユリは筒外側に赤縞がありますが、シンテッポウユリには赤い縞がありません。



180818・R8



180803・K5

白花



180803・K5



180803・I3

ヒメジョオン 姫女菀

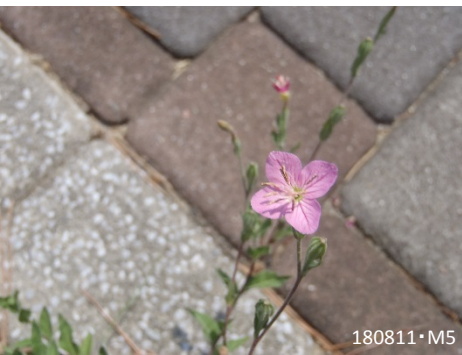
キク科ムカシヨモギ属の一年草。背の高さが50-100cmにもなる。同族のハルジオンと共に道端でよく見かける雑草であり、**環境省指定要注意外来生物**。



180818・R8

ユウゲシヨウ 夕化粧

アカバナ科マツヨイグサ属の多年草。和名の由来は、午後遅くに開花して艶っぽい花色を持つことからとされる。帰化植物として温暖な地域に広く分布。



180811・M5

ノブドウ 野葡萄

蔓を巻きつけながら成長するクロウメドキ目ブドウ属の蔓性落葉低木。夏の花より秋のカラフルな果実が目立ちます。花は小さな薄黄緑色の五弁花で、果実は小球状で成熟の過程で、紫4、赤、空色など様々な色になり美しいです。

ヘクソカズラ

屁糞葛

蔓性多年草で、至る所に多い雑草。葉や茎に悪臭があることから漢字で書くと屁糞葛の名がある。古名はクソカズラ。別名はヤイトバナ、サオトメバナ。

ハナハマセンブリ 花浜千振

地中海沿岸の原産で北アメリカなどに帰化している。根生葉はロゼットを形成しない。よく似たベニバナセンブリは花の直径が11~13mmと大きく、普通、花期にも根生葉がロゼット状に残る。



180818・M7



180801・P4



180811・I5



180826・M7

ヤブガラシ 藪枯らし

ブドウ科ヤブガラシ属のつる植物である。和名は藪を覆って枯らしてしまうほどの生育の旺盛さを示している

メリケムグラ

北アメリカ原産。1969年に岡山県で見いだされ、東海・近畿以西に分布し、やや湿った場所に生じ、茎は基部で四方に分岐して横に広がり、マット状を呈する。葉は広線形で対生し、表面は濃い緑色でやや革質、ほぼ無毛。花は白色の筒形で先端4裂する。



180826・M7



180803・R3



180811・J8



180826・M7



180803・R3

エノコログサ

狗(犬)尾草 1年生草本である。ブラシのように長い穂の形が独特な雑草である。夏から秋にかけてつける花穂が、犬の尾に似ていることから、犬っころ草(いぬっころくさ)が転じてエノコログサという呼称になったとされる。
 俗称 猫じゃらし。



180818・I5



180811・H4

ヘラオオバコ 篋大葉子

オオバコ科オオバコ属の多年草。ヨーロッパ原産の帰化植物でヨーロッパではハーブとして食用や薬用に利用。
環境省指定要注意外来生物



180803・L5

ヒメクグ 姫莎草

カヤツリグサ科の多年生雑草で北海道～九州北部に分布します。湿った場所に発生しやすく、高さ10-30cmの群落を形成します。花茎の先端に、丸っこいくす玉のような穂を、1個だけつけるのが特徴である。



180811・O6

イヌクグ (カヤツリグサ属)

乾燥気味の日当たりの良い所を好む暖地性の多年草。草丈30cm～60cmになり、根元より三稜形の長い茎を伸ばし、茎の先に葉と同形の包葉を3個～5個出す。小穂はブラシ状に開出してつけ、小穂の長さ4mm～5mmの円柱形で先端に小花をつける。